

横須賀三浦地域首長懇談会議事録

開催日時 令和8年7月29日（水）15時15分～17時25分

開催場所 三浦市南下浦町上宮田 3258 番地 4 南下浦コミュニティセンター多目的ホール

出席者

市町	県
横須賀市副市長 上条 浩	神奈川県知事 黒岩 祐治
鎌倉市長 松尾 崇	政策局長 足立原 崇
逗子市長 桐ヶ谷 覚	文化スポーツ観光局長 今井 明
三浦市長 出口 嘉一	福祉子どもみらい局長 本間 健志
葉山町長 山梨 崇仁	環境農政局長 尾埜 美貴江
	健康医療局長 埋橋 美穂
	県土整備局長 池田 一紀
	教育局長 篠田 寛
	警察本部
	交通部交通規制課長 金丸 傑
	横須賀三浦地域県政総合センター所長 川上 亮

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

それでは定刻少し前でございますが、ただいまから令和8年度横須賀三浦地域首長懇談会を開催いたします。私、本日進行を務めさせていただきます横須賀三浦地域県政総合センター所長の川上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日の県側の出席者はお手元に配布しました出席者名簿の通りでございますので、紹介は省略させていただきます。また、本日の会議は、取材は自由となっておりますので、ご承知おきます。本日の進行でございますが、次第のとおり、最初に「三浦半島の観光のあり方～「GREEN×EXPO 2027」に向けて～」をテーマとし、県からの説明、各市町からご発言いただいた後、意見交換していただきます。その後、市町からの話題、課題等についてご発言いただきます。本日の懇談会は17時15分までと、限られた時間でございますが、皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。それでは最初に黒岩知事からご挨拶申し上げます。

【黒岩知事】

本日は大変お忙しい中、またお暑い中、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。また開催にあたりまして、この会場をご用意いただきました三浦市の出口市長、大変お世話になりました。ありがとうございます。さて、地域単位で行っておりますこの首長懇談会は、地域の課題について、私と首長の皆様で率直な意見交換をする場であります。本日は、「三浦半島の観光のあり方～「GREEN×EXPO 2027」に向けて～」を中心に意見交換を行うこととなっております。県としても、必要に応じて来年度の予算編成等に向けた対応が図れるように、この時期に開

催しております。限られた時間ではありますが、地域の実情を踏まえた率直なご意見をいただきたいと思います。意見交換に先立ちまして、ともに生きる社会の実現に向けた取組について申し上げたいと思います。今年は津久井やまゆり園事件から、10年の節目にあたります。県では、より多くの方に思いを寄せていただけるように、7月25日に相模原市立あじさい会館において追悼式を実施するとともに、これからの当事者目線の障害福祉を、県民の皆様と一緒に考える「誓いの集い」を行いました。また、翌26日には津久井やまゆり園の鎮魂のモニュメントを訪れる方々に献花をしていただく等、亡くなられた方々に静かに心を寄せることができる場を設けたほか、7月17日から8月31日にかけては、津久井やまゆり園に来られなくても献花ができるよう、インターネットを活用したデジタル献花を実施しております。今後も事件を絶対に風化させてはならない、その強い思いのもと、ともに生きる社会かながわの実現を目指して全力で取組を進めてまいりますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

本日はこの会議の後に皆様と懇談させていただく場を用意しておりますので、地域の課題について率直に意見交換し、充実した時間を過ごしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

続きまして、開催地の三浦市、出口市長より一言ご挨拶をお願いいたします。

【三浦市長】

皆さんこんにちは。三浦市長の出口でございます。ようこそ三浦市へお越しいただき、誠にありがとうございます。黒岩知事をはじめ、県の幹部の皆様には、平素より地域の課題解決や市町との連携にご尽力いただいておりますことを、誠に深く感謝申し上げます。また、昨日、熊本で、震度7の地震がありまして、今、現地は非常に大変ご苦労されていると思いますが、このことに接しましても、県と市町の連携強化、非常に重要だということを改めて感じた次第です。引き続きよろしくお願いいたします。

三浦市では先日、7月18日に「MIURA FUN BEACH 三浦海岸」を開設しまして、多くの観光客にお越しいただけることを、期待しているところでございます。本日のテーマは三浦半島の観光のあり方、「GREEN×EXPO 2027」に向けてということでございますが、皆様と率直な意見交換をさせていただきまして、これまで以上に連携を深め、三浦半島全体にとって最適な観光のあり方を共に考える機会にしたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。それでは早速、意見交換に入らせていただきます。まず、神奈川県環境農政局長の尾裕、文化スポーツ観光局長の今井と、私、川上より、「GREEN×EXPO 2027」と神奈川県の観光施策についてご説明をさせていただきます。

【環境農政局長】

神奈川県の環境農政局長の尾裕と申します。日頃から本県の環境農政行政に多大なるご協力を

賜りまして、この場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。また「GREEN×EXPO 2027」につきましても様々ご支援、ご協力をいただいておりますこと、併せてお礼を申し上げます。ありがとうございます。それでは説明をさせていただきます。私から「GREEN×EXPO 2027」につきましてご説明させていただきます。こちらは「GREEN×EXPO 2027」ですが、EXPO 全体テーマの、「幸せを創る明日の風景」ということで、開催期間は来年の3月から9月まで、横浜市の上瀬谷、旧上瀬谷通信施設で、1都3県初の万博として開催されるものでございます。1,000万株という圧倒的な規模の花と緑に彩られた会場では、例えばグリーン社会を実現する先端技術などの企業出展なども予定されているところでございます。こちら、県出展のエリアですが、入場ゲートからほど近いところ、メインストリート沿いにありまして、隣には県のオリジナルミュージカルを行う主催会場もございます。こちらが神奈川県の出展エリアの工事の状況ですが、神奈川県の出展エリアには「Vibrant INOCHI Forest かながわ館」というふうに名付けております。

こちらが庭園の方ですが、今、造園工事と造成の工事が終わって、給排水設備などの整備が行われております。こちらの建物の建築工事の方ですが、基礎工事が完了して、このように鉄骨が組み立てられているという状況でございます。こちらが県出展エリアにおける市町村の出展スペースとなっております。屋内に1週間程度の期間に渡って展示いただける25平米のスポット展示のエリアが2ブースございます。また、日替わりに行っていただく催事のスペースにつきましては、屋内に催事スペースが50平米、それから屋外の催事スペースが100平米でございます。また、屋外の庭園にもスポット展示のスペースがございます。こちらが県内市町村の皆様の出展の状況でございます。ご覧の通り、県の出展エリアに32市町村にご出展いただくことになっておりまして、横浜市と合わせて県内の全市町村に出展いただけるということになっております。誠にありがとうございます。こちら、市町村の各種のイベントで多くの方に「GREEN×EXPO 2027」のPRをさせていただいております。また、知事も北海道から沖縄まで全国津々浦々を回って、こちらは皆さんご存知の折り紙ですとか、県で作成している「GREEN×EXPO 2027」応援絵本「あちち地球とだいじなやくそく！」といった絵本を活用しながらですね、全国でのPRをしているところでございます。各市町村には、こちらチラシ、ポスター、のぼり旗、パネル等を既に配布をさせていただいているところでございます。ぜひ、多くの皆様の目に留まる場所ですとか、イベント等、活用していただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。続きまして、チケットの販売状況ですが、協会が7月24日に公表した数字でございます。早割1日券が217万枚ということで、これ先月が45万枚程度でございましたので、大変大きく伸びている状況でございます。また、市町村のふるさと納税の共通返礼品につきましては、現在、取りまとめをしております。今月中に総務省の方に提出して、秋ごろには登録される予定となっております。

続きまして、ミュージカルにつきましてご説明させていただきます。県出展のメインテーマでございます「Vibrant INOCHI」を全世界からの来場者に分かりやすく伝えるためのミュージカルを制作・上演することとしております。7月14日に踊ってみた動画の企画発表、公式振付け動画を公開させていただいております。また動画の募集も開始をしております。募集の概要はこちらの通りでございますので、ぜひ市町村の皆様にもご応募いただければと思っております。続きま

して、フレンドシップ事業でございますけれども、「GREEN×EXPO 2027」の参加国と県内市町村、県内自治体の友好交流事業を行うこととしております。募集を行いました結果、6月末時点で現在6自治体の皆様が参加意向を表明していただいております。今後も引き続きご意向があれば受付を行いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、子どもの体験支援でございます。こちら、子ども体験促進事業と校外学習支援事業の2つございまして、まず子ども体験促進事業でございますけれども、こちらは県内在住の希望されるお子さんが個人で来場できるように支援するというものでございまして、9月1日から申請受付を開始する予定でございます。8月にはチラシポスターを配布し、周知することとしております。続きまして、校外学習支援事業でございますけれども、こちらは、学校単位で希望される場合に、入場チケットの手配等を行うものでございます。7月31日まで意向調査を実施させていただいているところでございます。すでに、いくつかの市町におかれましては、GREEN EXPO 協会に職員を派遣していただいているところでございますけれども、こちら博覧会協会への職員派遣も含めまして、「GREEN×EXPO 2027」の成功に向けて、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

【文化スポーツ観光局長】

引き続きまして、文化スポーツ観光局長の今井でございます。お世話になっております。私からは、「GREEN×EXPO 2027」を契機とした観光施策とかながわ観光連携エリア推進事業の取組についてご説明させていただきます。まず観光施策でございますが、「GREEN×EXPO 2027」を契機に全国からの誘客を促進するため、来年4月から6月にかけて、J Rグループや横浜市等と共同で「神奈川・横浜デスティネーションキャンペーン」を実施いたします。

1年前である本年4月から6月にかけては、プレキャンペーンを実施いたしました。横須賀三浦地域の皆様には大変お世話になったところでございます。具体的にはマグロをはじめとした三浦半島の様々な海産物、農産物、加工物を堪能しながらお得な商品がもらえる「三浦うらりマルシェビンゴスタンプラリー」、また、鎌倉彫の彫りと塗りを職人の指導の元に一貫して体験できる「鎌倉彫工芸館オリジナル作品作り体験」といった期間限定の特別企画を実施したほか、J R東日本の主要駅にポスターの掲示、ガイドブックの配布などのプレキャンペーンを実施しました。6月9日には全国の旅行会社を招きまして、全国宣伝販売促進会議を開催いたしまして、神奈川・横浜の魅力、三浦半島の魅力をPRするとともに、会議の翌日には、エクスカーション、視察旅行を実施いたしまして、旅行商品の造成を働きかけたところでございます。この実施につきましては、地域の皆様に、地域の魅力アピールにご協力いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。続きまして、このデスティネーションキャンペーン以外に、今年度は花のフォトコンテストの開催、また、過去のフォトコンテストのパネル展示、また、県内の花スポットをめぐるデジタルラリーなどを実施いたしまして、「GREEN×EXPO 2027」に向けた機運醸成を図っていきたいと考えております。続きまして、かながわ観光連携エリア推進事業でございます。皆様方には大変お世話になっているところでございます。県では、横浜、鎌倉、箱根に次ぐ、国内外から多くの観光客が訪れる魅力ある観光地域づくりを目指し、かながわDMOと協力し、各連携エリアの取組を支援しています。昨年度からは連携エリアの取組に対し、補助金により支援を行っております。

連携エリアの取組を継続していくためには、行政に加えまして、民間事業者様のノウハウや創意工夫を生かした取組をさらに増やしていくことが重要でございます。そこで県では、民間事業者様の一層の参入促進を図るため、今年度から観光客の周遊を促す新規事業の立ち上げにかかる経費を新たに補助対象とするなど、支援制度を改善しまして、活用しやすいような形にさせていただいております。今年度からは、三浦半島エリアにおかれましては、ガストロノミーツーリズム、食ですね。また、アドベンチャーツーリズム、自然、海、こういったものに取り組む民間事業者様を支援する公募を実施しているところでございます。三浦半島エリアのさらなる周遊促進につながるよう取り組んでまいります。この連携エリアの補助金ですが、6月19日に一旦締め切りましたが、まだ若干予算がありますので8月目途に追加募集をしていきたいと考えております。各市町の皆様におかれましては、引き続き、本事業を活用していただくとともに、観光関連の民間事業者様に、お声がけしていただきまして、参入促進にご協力くださるようお願いいたします。以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

続きまして、私から横須賀三浦地域県政総合センターで取り組んでおります、地域まるごとホテル@三浦半島の説明をさせていただきます。地域まるごとホテルとは、地域の観光資源と宿泊施設をつないで、街全体でもてなす新たな滞在スタイルを提案するものとなっております。現在、ご覧の4つのエリアがスタートしています。それぞれのエリアを簡単にご紹介させていただきます。1つ目、三崎港エリアの事業者、ミウラトラスト株式会社の中川さんです。宿泊施設は古民家や商店を改装したものとなっております、内装もその雰囲気を残した造りとなっております。食事は近くの飲食店でお召し上がりいただき、宿泊者だけの特別参拝や観光船の特別割引などもご用意をしています。2つ目、横須賀市・秋谷・芦名・佐島エリアは浄楽寺の宿坊になります。代表の副住職の土川さんです。宿坊の外観になります。内部は自分を見つめ直すための落ち着いた空間になっておりまして、食事は幕末の食文化を再現したイタリアンや、地元の魚を使った握り寿司体験等もできます。また、全国に20体ほどしかない運慶の仏像が5体ありまして、特別な観覧もできます。3つ目、三崎エリアはブルワリーに併設された宿になります。代表の小松さんです。宿はこの三浦ブルワリーの2階になっておりまして、内装は外国人観光客も想定したシンプルな造りになっております。また、各部屋にはビールタップがありまして、好きなだけビールをいただけます。魚料理の体験や、海上釣り堀でのフィッシングなども併せて楽しんでいただけます。最後の葉山棚田エリアは、この棚田を残していきたいという思いから、代表の沖本さんが取り組まれています。宿泊施設のわたやは、古民家を改修したものになっておりまして、柱や梁をそのまま活かした作りになっています。地元の食材を活かした料理のほか、日本の里100選にも選ばれております棚田周辺の散策や農作業も体験することができます。現在、このまるごとホテルの認知度を向上させるため、都内でのイベントやフォトコンテストを実施しているほか、京浜急行のまるごときっぷとタイアップしたキャンペーンや、県の観光情報サイトやインスタグラムなどを通じたPRも行っています。今年度は新たなエリアの採択に向けて取り組んでおりますので、引き続き、各市町の皆様のご協力をお願いいたします。県からの説明は以上でございます。

それでは引き続きまして、本日のテーマ「三浦半島の観光のあり方「GREEN×EXPO 2027」」に向

けて」について、各市町長からご発言をいただきたいと思います。恐縮でございますが、建制順で一人5分程度でお願いできればと思います。それではまず、横須賀市の上条副市長、お願いいたします。

【横須賀市副市長】

横須賀市の上条と申します。今日はこのような機会を与えていただきありがとうございます。土地が国外に出張中でありまして、本日は私からご説明申し上げたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。今回いただいたテーマが三浦半島の観光のあり方です。「GREEN×EXPO 2027」に向けてということだったので、これに絡めて作ってみました。まずはじめに、「GREEN×EXPO 2027」が3月19日から9月26日まで、その間に、横須賀の美術館ではジブリパーク展という、横須賀美術館では2回目なのですが、かなり新しい様々な展示物が出展されるような、そういったもので、関東エリアでは、横須賀以外は当面行われないと聞いています。令和9年度の大河ドラマ、「逆賊の幕臣」の主人公、小栗上野介さんという方が昔、ペリーが来航して、日本がこのままでは植民地になってしまう、船をなんとか作らなければならないということで、横須賀に最初に工場を作ろうということでスタートし、その後、様々なところで江戸幕府に仕え、最後は東郷平八郎さんがバルチック艦隊を破りましたが、東郷さんが小栗上野介のご遺族のところに現れて、今回、日露戦争に勝てたのは小栗さんのおかげだとお礼を言って書を残していったというエピソードがあります。ご存知の方は多いかもしれませんが、三笠公園もそこに縁がありますし、それから横須賀製鉄所というものを作ったそういった実績もありますので、NHKとタイアップしまして、大河ドラマ館を設置し、そして横須賀美術館では歴史にテーマを置いた催しをやろうと思っています。まずジブリパーク展、横須賀美術館は、県の土地をお借りして建てさせていただいております。今回もいろいろご協力いただいております。令和9年2月11日から5月14日想定の間来場者数が23万人、これは時間の予約制にして、環境のいいところで混み合わないようにするという想定で、この人数に抑えています。概要ですが、スタジオジブリ作品の世界を表現した公園施設、ジブリパークが愛知県名古屋市にあるのですが、その楽しさをぎゅっと凝縮した展覧会で、前回は令和6年に行いました。今回のジブリパーク展、今、大阪で開催していますが、どちらかというとキャラクターを前面に出しており、この中で写真が撮れるというものがほとんどのメインテーマです。特に右上は千と千尋の神隠しのハクという龍ですが、全長が6mから7m、実在はしていませんが、実物大で作っているもので、ここはすごく人気が出ると思います。そして今、大阪の展覧会ではこういう表示をさせていただいています。結構見に来る人がみんな気づいて、次は神奈川で行われるのだと、横須賀美術館で行われるということで、かなり反響があります。これは前回のものですが、一番左、ジブリ展の時にどこから来たかということ、市内、それから県外、県内が56.2%、県外が18.4%、年代は40代、女性が多いということなのですが、今回は他の市町でまだ行われていないので、県外からかなり来るのではないかと考えています。これは参考で、赤いところほど前回のジブリ展で横須賀に来てくれたエリアを表しています。人流分析です。これは市内でどうやって周遊したかということなのですが、ジブリ展が行われている間は市内で、左下のようないろんな連携をしまして、通常の年に比べてどれぐらいの人が訪れたかということでは、美術館だけではなく、街全体の経済効果につながっているという

結果が出ています。

もう一つ、大河ドラマ「逆賊の幕臣」です。こちらは先ほど申しました一番左側にヴェルニー公園というところがありまして、小栗上野介ゆかりの公園です。それから、汐入を降りたすぐのところに大河ドラマ館を設ける予定です。右上の方に三笠公園がありますが、こちらでも特別展示を行い、それから一番右下のところ、美術館、企画展、こういったようなもので市内を周遊してもらおうという形です。「GREEN×EXPO 2027」は、おそらく全国、海外も含めて多くの方が見えるので、三浦半島、横須賀を訪れたことがない方が大半だと思っています。海外でも人気のあるもの、全国でも人気のあるもの、これがちょうどその時、行われますので、一度、とにかく三浦半島、横須賀に来ていただく、そのきっかけを作りたいと思っています。そして、一過性に終わらせるのではなく、ずっと我々横須賀で行っていることは、様々なイベントでいろいろな層を連れてくる。そのためには、横須賀はどちらかというと軍港のイメージなので、そのイメージではなくて、軍港に関係ないけれども、そのイベントが好きで来ると、アーティストにしても、いろんなものにしてもですが、それで来ていただくと、横須賀って意外と風光明媚で面白いスポットがいっぱいあるので、リピーターとして来ていただけるということが分かっているので、とにかく1回来ていただくということであれば、「GREEN×EXPO 2027」というのは非常にありがたい機会と思っているので、ぜひつなげていきたいと思っています。私からは以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、鎌倉市の松尾市長、お願いいたします。

【鎌倉市長】

こんにちは、鎌倉市長の松尾です。黒岩知事をはじめ、県の皆様、本当に大変お世話になっております。ありがとうございます。では発表させていただきます。「GREEN×EXPO 2027」に向けてというところですが、鎌倉の場合どうしてもオーバーツーリズムの課題解決というのが先に来ます。今、駅前で、観光ボランティアの方に街頭に立っていただいて、外国人観光客の方を中心にご案内をしていただいています。これが、外国人観光客の方にとっても喜ばれていて、これを継続して対応していきたいと思っています。それからマップや看板を増やしています。そしてマナーの啓発というところで、旅前から、鎌倉のみならず、日本ではこういうことが大事だということをより発信していきたいと思っています。まずこの取組ですが、今後、「鎌倉市公共の場所におけるマナーの向上に関する条例」に罰則規定を設ける、それから「鎌倉市みんなでごみの散乱のない美しいまちをつくる条例」にも罰則規定を設けることを検討しています。これは別に厳しく罰金を取りたいというわけではなく、そういったマナーをしっかりと守った上で観光を楽しんでいただきたい。それこそが、来る人も、また住んでいる人も、幸せになる形だということを、より一層、発信していきたいと考えています。そして、直近では宿泊税の導入ということを来年の10月から予定しております。これはどの自治体も今、取り組んでいるところですが、鎌倉はもともと宿泊施設が少なく、そういう意味では微々たるものにはなりますが、こういったこともスタートします。そして鎌倉市観光基本計画の中に、葉山町の発表より先にですね、

これを言うのはちょっとあれなのですが、レスポンスブルーツリズム、葉山町が全面的に押し出している文言ですが、観光基本計画の中に入れさせていただいているところでもあります。この「GREEN×EXPO 2027」も意識しながら、この数年間の取組の組立をしています。

昨年は東アジア文化都市という取組をさせていただきまして、今年はフランスのニースと姉妹都市交流、これは単なる行政の交流ということにとどまらず、市民や事業者の皆さんを巻き込みながら、継続的にこうした取組をしていきたいと思っています。そして来年はこの「GREEN×EXPO 2027」という機会を、鎌倉としては、真の鎌倉の歴史や文化の価値を多くの方に知っていただく、絶好の機会だと捉えさせていただいています。ここにはまだ書くには熟度が足りなくて書けてないのですが、「GREEN×EXPO 2027」のちょうど閉幕に合わせた9月に、我々独自の芸術祭を企画しているのと、その前後に合わせて音楽祭という、鎌倉としては初めての企画として、「GREEN×EXPO 2027」に併せた形で取組をしたいと考えています。今後、詳細が詰められたら、情報発信もしていければと思っています。鎌倉の発表は以上です。ありがとうございました。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、逗子市の桐ケ谷市長、お願いいたします。

【逗子市長】

皆さんこんにちは。逗子市長の桐ケ谷でございます。今日こうした機会を設けていただきまして、ありがとうございます。逗子の活動等、3点についてお話しさせていただきます。逗子は本当にここと言って、一押しの観光スポットなどはない街ですが、ただ、観光というのはどういう立ち位置にあるかということを考えますと、何よりも関係人口づくりには大変適しているものと考えております。何度も逗子に足を運んでいただく間に、逗子が好きになり、そしてやがては住むなら逗子だと、こう言っていただける、そういったものに観光というのは大変有効なものと考えております。夏以外にも、秋口に海にライトを当てることで、波が夜行虫のように輝く。こういったものをイベントとして企画しながら、様々手を打っているところです。また、海水浴シーズンでありますけれども、ウォーターパークというものが設置されています。ちょうど私が商工会長、観光協会の会長時に、スタートしたもので、大変思い入れがあるのですが、スタートのときはオーストラリアの人たちとの連携でスタートしました。今は地元の事業者に設営から運営までを行ってもらっています。昨年の数字ですが、2万8千人の方が、海水浴シーズンにこのウォーターパークで遊ばれたということであります。これは逗子の特徴ある地形によるものと思います。というのは、外洋に面していますと、波でしょっちゅう引き上げ、また再設置となるのですが、逗子海岸は入江になっている関係で、安定して開催が例年でできているというところです。

今回「GREEN×EXPO 2027」に逗子が出展させていただきますが、市内在住の生け花の作家がおりまして、彼に出展をしていただきます。久保島一裕氏とおっしゃって、お父さんが大変有名な草月流の方でありまして、その息子さんです。彼の環境に寄せる関心から、地域の放置竹林ですとか、藤蔓を生かした作品にしたいということです。横横道路を逗子へ走って来ていただくとお分かりになると思うのですが、山々がもう大半が藤蔓に覆われた樹形になっていまして、あれは木のためにはもう厄介者でしかないものですが、これを活用するという事です。ちょうど彼が

10 周年の時の映像を見ていただきたいと思います。(動画の投影) どういったものになるかは、これからですが、地元で厄介者と言われる竹林や藤蔓を生かした展示になるものと思われます。ぜひ、最終週の 22 日から 26 日までが逗子市の展示ですので、よろしくお願いいたします。

未来展望ですが、逗子は地形上、三浦半島の入口にありまして、逗子自体には大きな特徴がなくとも、入口として、何か力を発揮できるようにしたい。こう考えているところです。そして、周遊の玄関口になるということ、これには我々も多くの方々に、通過であれ、何であれ、活用していただければと思っております。また、県の方にご協力をお願いしたいことは、観光に係る県の補助金を頂戴しております。逗子は渚マリーナを取得すべく、議会の議決もいただきましたので、これから令和 10 年の事業開始に向けて、今、準備をしているところであります。それで、小坪の漁港と、この逗子の中心地の渚マリーナ、ここに漁師タクシーを使いながら周遊させようということを、今、調査検討しております。どうしても小坪は足の便が悪いところがありますので、駅から歩いて行ける渚マリーナから小坪も交えた海上で、また周遊の楽しみにも活用してもらえればと思っております。ぜひ県の補助金等も、今後ともよろしくお願いいたしますということで、お願い申し上げます。以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、三浦市の出口市長、よろしくお願いいたします。

【三浦市長】

改めまして、三浦市の出口です。黒岩知事はじめ、県の皆様には日頃より大変お世話になっておりまして、感謝申し上げます。「GREEN×EXPO 2027」に向けてということで、着座にて失礼します。三浦市では、来年の 3 月 19 日から 9 月 26 日に開催される「GREEN×EXPO 2027」を三浦半島全体の魅力を国内外へ発信する貴重な機会だと捉えています。また、同じ時期に、J R のデスティネーションキャンペーン、これが 4 月 1 日から 6 月 30 日に控えておりますので、県内で開催されるこれら大型イベントの機運醸成に対して、三浦市としても積極的に連携を図っていきたいと考えております。その一環として、先ほど少しご説明ありましたが、先月の 9 日に開催された全国宣伝販売促進会議に、三浦市も参加させていただき、三浦半島への誘客に繋げられるよう、観光資源や食文化などの魅力を中心にプレゼンテーションを行わせていただきました。大変反響があったと伺っております。

そしてその流れで翌 10 日に、実際に横須賀市、三浦市を巡るエクスカーションを実施しまして、ご参加いただいた旅行代理店の皆様には、三浦海岸にあります乗馬体験ですとか、城ヶ島ハイキングコース、そしてマグロのグルメ等といったコンテンツを実際に体感していただきました。さらに、その翌日の 11 日には、横浜エリアのエクスカーションに組み込まれていた、みなとみらい熱気球搭乗会と連携させていただき、この搭乗会の時に、朝ちょっと食べたり飲んだりするものがなくて寂しいというお声がありましたので、それならば、ということで、三崎朝市名物のトロちまきを、旅行代理店の皆様に試食いただくというアレンジさせていただいたところがございます。やはり、三浦半島の観光の強みということは、日常に近いのに非日常があるということで、非常に都心からも近い場所で、観光の魅力を体験できるということになるのではないかと考えて

います。三浦市に関しましては、都心から一時間余りで海があり、畑があり、港があり、新鮮な食がごございます。三浦半島それぞれの町に個性豊かな魅力が詰まっておりますので、その魅力を半島全体でつないで周遊していただくという視点をさらに強化していきたいと感じております。

そして、三浦市としまして、例えば三浦の代表的なイベント、みうら夜市、三浦海岸桜まつり、三浦国際市民マラソンがごございますが、これらの機会を通じて、「GREEN×EXPO 2027」について積極的にアピールしていきたいと考えております。また、「GREEN×EXPO 2027」の会場では、県出展エリアにおいて、三浦市として9月11日から13日までの3日間、スポット展示をさせていただく予定です。現在、三浦海岸海水浴場を彩るアート作品、現在も展示しておりますが、こういったものを活用しまして、会場を賑やかに演出できないか検討を進めているところです。加えて、三浦市の観光大使で、私の中学の先輩でもある、三浦市出身のお笑いコンビ、たんぼぼの川村エミコさんが「GREEN×EXPO 2027」の応援団メンバーに任命されているということで、こうしたご縁もごございますので、「GREEN×EXPO 2027」を身近に感じ、参加いただける機運づくりを進めたいと考えております。

今回の「GREEN×EXPO 2027」を単なる一過性のイベントではなく、一度来ていただいて、神奈川県自然、文化、人の魅力を多く知っていただいて、一度来ていただければ、また二度、三度と繋がっていくと思いますので、その貴重なきっかけにしていきたいと考えております。これからも神奈川県におかれましても、三浦半島への誘客に対して、引き続きご支援、ご協力をお願いしたいと思います。以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、葉山町の山梨町長、お願いいたします。

【葉山町長】

県の皆様、改めまして、毎年のことではありますが、こうして県内をずっと回られて大変だなと思います。本日は貴重な機会をいただき、本当に感謝申し上げます。今日は、葉山町の方向性をお示ししようと思い、お持ちいたしました。観光と言いますと、葉山町は、やはり住宅の町になっており、先ほどの出口市長の資料でもあったように、富士山が見えるところ、そして海でゆっくりするところという部分が葉山のいいところだという感覚がありますが、宿泊施設の数が最近伸びてきています。かつては宿泊施設がないと言っていましたが、最近じわりと伸びてきてまして、まだまだ少なくは見えますが、住宅の町ですので、増加と同時に、生活環境の悪化が発生しています。すぐに警察への通報や町役場への声が来ます。鎌倉保健福祉事務所にも色々と声が入って、ご迷惑をかけているのではと思っています。鎌倉市ほどではないですが、こういった住宅の町としての特性が少しずつ私たちにのしかかってきているところです。今回の「GREEN×EXPO 2027」を一つのきっかけとして、言い方に語弊はありますが、観光に対して、きちんとルールを守ってもらえるような、厳しい町だとアピールしていくことで、逆に葉山が好きな人に来てもらえるような、理解してもらえる方々に、ツーリストとして日本を知ってもらえるようにしていく、きっかけになれたらなということで、レスポンスブルツーリズムということを積極的に発信していこうと思っています。松尾市長のおっしゃる通り、と思ったのですが、私

の方からも丁寧に説明させていただきます。葉山のレスポンスブルツーリズムの始まりは、葉山町観光協会が、沖縄県の竹富島を参考に持ってきた概念と聞いております。責任ある観光ということですが、竹富島という島には私は行ったことないのですが、竹富島に向かう沖縄県の石垣島のフェリー乗合所から、フェリーの中でも、竹富島はこういう島です、こういう場所です、住民皆さん注意してくださいという、島での観光のあり方をずっとアピールするタイミングがあるらしいのです。それを参考に葉山町も、こういった6つのお願いというのを冊子にまとめて、葉山町なりのレスポンスブルツーリズムというのを作ってみました。葉山の場合は皆さん車でいったり、バスでいったり、タクシーでいったりする町なので、これをどこで観光客の皆さんにお伝えするかというと、先ほどお見せしました宿泊所の方々に集まっていたいて、宿泊所の方々と連携し、こういったレスポンスブルツーリズムがあるということをお知らせしていただけるようなパンフレットを置いていただければと考えております。決して、規制とか、やめてくれではなく、こういう町だということをお知らせし、理解していただいて、寄り添ってもらえるような、レスポンスブルツーリズムのあり方にしていこうと思っております。今、民泊規制とか条例と言われますけども、こうして理解していただくことで、歩調を合わせてもらえるようなアプローチの仕方を、町で取り組んでいくことで、「GREEN×EXPO 2027」を多くの機会として、一つの旅行のあり方として提案していきたいと考えております。

「GREEN×EXPO 2027」に向けてですが、改めてこの期間で考えたのは、葉山はどうしても富士山が見える海の街というイメージなのですが、この後お知らせする、三浦半島の大きな山を抱えている出入口であるという観点から、名前の通り葉と山の町であるということと、そこに住んでいる人々の暮らしを、共にご説明していくことで、新しい葉山の魅力としてご案内できるのではと考えております。と言いますのも、国で国土形成計画の検討の中で、首都圏広域地方計画がまとめられましたが、その一文に、「緑のネットワーク形成として、首都圏には多摩丘陵と一体となっている重要な緑の基軸を形成している三浦半島のような」というような表現をしていただきまして、三浦半島の価値について改めて認識する機会をいただいています。これに基づいて、改めて葉山の山は三浦アルプスと呼ばれていまして、トウキョウサンショウウオ、オオタカ、サンコウチョウ。絶滅危惧種、準絶滅危惧種、準絶滅危惧種ですね。これらが生息をしている葉山で、多くの方が見に行きたいと言われます。考えてみますと、葉山は駅がない街なので、多くのハイカーや、トレッキング、とはいっても、トレイルランはやめて欲しいのですけれども、トレッキング客が逗子市から歩いて、何人も連なって山に入っていける。葉山から入って、横須賀市を通り、逗子市を通り、横須賀市を通過して、また葉山の街に戻ってきて、また逗子駅から帰るという流れもあって、この山の出入口なのだなということを改めて認識しております。先ほどのレスポンスブルツーリズムと併せて、こういった山の魅力をしっかりと守っていくことを発信していきたいと考えているところです。こういった大きな土地につきましては、今、県の環境農政局を中心に、いろいろと議論させていただいています。この土地は民間が土地を多く所有していますが、三浦半島の大きな魅力として、この山の出入口として名前の通り、葉と山の町がこれを守っていく、まずは先陣を切っていこうと考えております。「GREEN×EXPO 2027」、来年までに、何かこちらをアピールできるような形ができればということで、頑張っていこうと考えております。最後に葉山の写真として JAPAN TIMES SATOYAMA フォトコンテスト 2018 で最優秀賞に入賞しまし

た葉山の写真です。海じゃないですね。山の葉山の表現で、賞を取りました。昨年、葉山町は環境大臣賞もいただきまして、こういった「山」を表現しながら、地球温暖化を含めた環境についても厳しく取り組んでいく、皆さんと一緒に頑張って取り組もうということをアピールし頑張っていきたいと思っております。私からは以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。それではここからは各市町長からいただきましたご発言を踏まえまして、意見交換に移らせていただきます。原則として、ご発言のあった順にご議論いただければと存じます。議論に先立ちまして、県の関係局からコメントさせていただきますが、複数の市町に関連する内容をまとめてコメントさせていただきます。それではまず、横須賀市上条副市長からご発言いただきました、「わざわざ訪れたいくなる集客力のあるイベントの周知」について、まずは環境農政局長の尾塚よりコメントさせていただきます。

【環境農政局長】

それでは環境農政局長の尾塚から発言させていただきます。今、各市町長から、「GREEN×EXPO 2027」に関して様々な取組をしていただいているということで本当にありがとうございます。まさに最初にご説明申し上げた通り、「GREEN×EXPO 2027」は、万博として開催するものでございまして、多くの方にご来場いただけたらと考えております。まさに国内だけではなく、海外からもたくさんのお客様がいらっしゃるということだと思っております。そうした「GREEN×EXPO 2027」を契機として、県内に周遊をしていただくということのために、例えばエキスポ会場やホームページ等におきまして、この、わざわざ訪れたいくなる集客力のあるイベントを周知していくということは大変重要なことであると思っております。開催期間中の市町村のイベント等につきましては、最初ご説明したように、県出展エリア内に色々なブースを設ける予定ですが、その中にPRブースを設けたいと思っておりますので、そこで紹介させていただきたいと考えております。また、県の「GREEN×EXPO 2027」のホームページ、というのも作っておりまして、そこから県内のイベントですとか観光の情報を紹介している神奈川県公式観光サイト「観光かながわNOW」のホームページにリンクを貼るなどして、観光関係の情報に簡単にアプローチできるような工夫もしてまいりたいと思っておりますので、ぜひ一緒に盛り上げていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

次に文化スポーツ観光局長の今井よりコメントさせていただきます。

【文化スポーツ観光局長】

文化スポーツ観光局長の今井でございます。今、横須賀市の横須賀美術館のジブリパーク展、大河ドラマの大河ドラマ館というお話を伺っておりまして、文化を所管する局長としては、横須賀美術館というのは本当に素晴らしいコンテンツ、取組をされていると私は常々感心をしておりまして、ジブリパークでは絶対観光客が来てくれると思っております。そうなれば、ぜひその方々

を「GREEN×EXPO 2027」にも来ていただきたいというくらい、私はそれくらい集客力のあるイベントだと思っております。しかも「GREEN×EXPO 2027」の会期中に開催ということですが、若干距離がありますので、県の方で今考えているのは、大阪関西万博の時にスタンプパスポートというものがあり、御朱印帳みたいなもので、そこにポンポンと押していく。会場内でいろんなところを回ると押していくっていうものなのですが、スタンプパスポートを持っている方が、例えば県内の他の施設に行ったときに、若干割引していただけたとか、何かもらえとか、何かそういった優待を受けられるような形にできないかというのを、今、博覧会協会と調整しているところでございます。加えまして、先ほどのスタンプラリー、会場内と言いましたが、会場外にもそういったスポットを設置するのも、協会の方と今調整しています。そうすれば、例えば三浦半島でもスポットを設置することによって、そちらの方にも誘導するといったこともできるのではないかと思いますので、今後いろいろご相談させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

上条副市長、いかがでしょうか。

【横須賀市副市長】

ありがとうございます。様々なアドバイスいただいて、ぜひこれから一緒に盛り上げていきたいと思います。やはり、半島に人を呼ぶということは、本当に大変なことだと日頃から思っています。少しでも半島に呼べれば、鎌倉市や逗子市に迷惑がかからないように、オーバーツーリズムの観光客をこちらに呼べるような形になればいいですが、まだまだ途上なので、少しでも横須賀市を知ってもらって来てもらって、そうすれば、鎌倉に行った後に横須賀に行ってみようとなると、鎌倉市に滞在する時間が減るとか、そういったことは地域連携の中でしっかり考えていきたいと思います。そういう取組ができて、半島で、それぞれの市町でスタンスや特徴が違いますけれども、それを逆に利用して、うまく分散化することは、とても大事だと思っていますので、そういったことは広域になってきますので、ぜひ県のお力、県のご協力をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。続きまして、鎌倉市長、葉山町長からご発言いただきましたレスポンスブルツーリズムの観点から、文化スポーツ観光局長の今井からコメントさせていただきます。

【文化スポーツ観光局長】

引き続き、今井でございます。昨年もこの場でいろいろ取組をお伺いしたところでございます。今、本県の入込観光客数でも2億を超えているという話です。あとは観光消費額も今、約1兆5千4百億円と順調に推移している反面、やはり住民の方への影響、過度な集中というのは一部で起こっているというのも課題かと思っております。今、鎌倉市と葉山町のお話を伺っていて、一つポイントになるのは調和、住んでいる方と観光している方との調和ということをどのようにし

て図っていくかということです。私が思いましたのは、観光地の混雑というのは実は前からありましたが、今何が起きているのかというのを、色々と考えてみて、やはり、一つはその急拡大、人が急に増えているというところが一つあると思います。

今まで国内観光というと、国内の旅行者の人が観光するところでしたが、そこに円安もあって、インバウンドで外国の人が今増えているというのが一つと、あとは昔、団体旅行だったものが、今は個人旅行化して、動きが取りづらいついてというのが一つ。あとは SNS やインスタ映えということで、みんながそういう情報だけで集まってしまう。加えて、おそらく生活エリアと観光エリアが重なってきているというところが、一番、問題の重要なところかと思っています。そうやってきた時には、先行して進めていただいておりますけれども、観光する方にもその意識改革を求めようなことが、世界的な動きにもなっていますので、レスポンシブルツーリズムというもの、県としても何らかメッセージを発信するような形ができないか、という仕掛けを今検討しているところで、県内一体でできるように進めていきたいと思っております。あとは、引き続き、分散ということで、観光客が訪れる場所や時間、季節、こういったものを変えていく。そのためにかながわ観光連携エリア推進事業補助金、こういったものを活用していただきたいと思いますし、また神奈川県としても今、ちょうど改定作業をしております神奈川県の観光振興計画の目指すところ、目標としては持続可能な観光地域づくりというところですので、そこは皆様方と連携して引き続き進めていきたいと思っておりますので、お知恵をお貸しいただければと思います。よろしくお願いします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

では、まずは鎌倉市長からいかがでしょうか。

【鎌倉市長】

ありがとうございます。いろいろと地域の実情にも配慮して、神奈川県からもいろいろご助言もいただいてきたところで、感謝申し上げます。鎌倉としますと、先ほども申し上げたところで、宿泊施設が少ないというところが、観光地としては、お金が落ちない構造になっているというところが大きな課題です。とはいえ、鎌倉に海外の観光客の方が満足できるようなホテルが急にできるかという、やはり、できないものですから。そう考えた時に、先ほど川上所長からお話がありましたが、この三浦半島の地域まるごとホテルのような取組ですとか、あと三浦市にも新しいホテルができたりですとか、この三浦半島の中で、もしくは鎌倉の拠点で話させていただければ、横浜市にもいいホテルたくさんありますから、日中に鎌倉を観光していただき、宿泊は周辺の皆さんがしっかりと受け止めていただけるという環境が少しずつ整ってきているというのは、神奈川県全体で言うと、素晴らしい状況に向かっているのではないかと思いますので、しっかりと鎌倉とも連携させていただきながら、この三浦半島、もしくは神奈川にしっかりと滞在していただけたところを、共に目指していければと思いますので、よろしくお願いします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。葉山町長いかがでしょうか。

【葉山町長】

今井局長、よくご理解いただいているので、特段ないのですが、本当おっしゃる通りだと感じています。観光地としての考え方と、観光じゃないエリアというのをしっかり分けられたらいいのですが、そうではなくなっている時代の流れが、非常に影響していると思っています。横浜環状南線が通ると、だいぶ我々にとってのストレスも出てきますし、それはインフラで対応できる面もあります。また今、民泊に関しては、国も法律の改正を色々と検討してくれているので、そこに敏感に、一緒になって議論させていただいて、県と取り組んでいければと思っていますので、引き続きの連携をぜひよろしくお願いします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、逗子市長、三浦市長、葉山町長からご発言いただきました、「GREEN×EXPO 2027」に向けた取組について、環境農政局長の尾塚からコメントさせていただきます。

【環境農政局長】

「GREEN×EXPO 2027」の期間中に、様々なイベントを企画等していただいているということ、また半島の中で、魅力的なコンテンツをご用意いただいているということで、「GREEN×EXPO 2027」に来たお客様をぜひ三浦半島の方に周遊させるということ、それから、そのために我々の方でしっかりPRをしていくこと、それから各市町の方でイベントなり、観光スポット等に訪れていただいた方に「GREEN×EXPO 2027」にぜひ来ていただくというようなことで、お互い連携しながらできればいいなと思っています。また、「GREEN×EXPO 2027」に様々な出展をいただけるというようなことでご説明をいただいたところでございます。県出展エリアでのスポット展示、あるいは催事というのは、市町の皆様の魅力を来場者の方に広く知っていただける絶好の機会と思っています。それぞれの市町の皆様が特色を生かした展示であるとか、関係のある各所を紹介していただくことで、大変魅力的なものになるのではと大いに期待をしているところでございます。この5月と6月にそれぞれスポット展示や催事の説明会を実施したところでございますが、イベントの疑問点等がありましたら、ぜひお気軽にお問い合わせいただければと思っています。我々としては市町の皆様も含めてみんなで盛り上げて、みんなで創って、みんなが参加する万博を目指しておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

各市長、町長様からご発言何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次に、逗子市長からご発言いただきました、観光に係る県の補助金について、文化スポーツ観光局長の今井より、コメントさせていただきます。

【文化観光スポーツ局長】

観光に係る県の補助金ということでご説明させていただきます。先ほどもご説明させていただ

きましたが、かながわ観光連携エリア推進事業費補助金、これはエリア内での市町村、民間事業者、どんどん参加していただきたいと思っております。先ほど申し上げましたが、8月に追加募集をしようと考えておりますので、関係団体の方々、観光事業者の方にこういった補助金を皆様からも周知していただけると非常にありがたいと思います。県としても支援していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

続きまして、逗子市長からご発言がありました。関係人口づくり、住む魅力につきまして、政策局長の足立原よりコメントさせていただきます。

【政策局長】

政策局長の足立原でございます。日頃より大変お世話になっております。私は住む魅力について、桐ヶ谷市長がプレゼンの中で関係人口という言葉をお使いになり、本当にその通りだと思いました。一度行ってみたいと思う人はいるのですが、例えば、逗子にはまっている、地域のイベントあるいは活動に何回か参加した、仕事でたびたび通うなどにより、最終的には住んでみたいなどはまる人や、関わってくれる人をどんどん増やしていくことを、ぜひ県としても一緒にやらせていただきたいと思いますと思っております。

ちなみに三浦半島地域は、皆様ご案内の通り、人口はまだ社会減となっています。特に若い世代で、引っ越して行く人の方が来る人よりも多い状況がございます。そのため、もちろん観光に行ってみたいと思うことも大事ですが、今申しました関係人口の観点から、「GREEN×EXPO 2027」を契機に、こういう場所もあって、こういう活動もあるのかと知っていただいて、繰り返し訪れいただき、あるいは、地域の魅力という、例えばあるスポットに行ってみたいと思ったところ、たまたまこれが逗子市であったという、そういう魅力もありますので、そういった魅力的なスポットを多く作るというお手伝いさせていただきたいと思っております。以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

逗子市長、いかがでしょうか。

【逗子市長】

ありがとうございます。逗子市は、産業は少なく、住宅の街としての磨きをどうかけるかというところですので、何よりも行ったことがある、そこから住みたいというところにどうつなげるかだと考えております。海が近いので、学生時代、ヨット等で逗子葉山によく行って、住むならやはりあそこだと、こうなっているということをよく耳にします。ぜひそういうものも含め、そこに活路を見出していきたいと思っているところです。よろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。次に、三浦市長からご発言いただきました「GREEN×EXPO 2027」を契機とした誘客方策について、文化スポーツ観光局長の今井よりコメントさせていただきます。

【文化スポーツ観光局長】

三浦市におかれましては、今年の4月から6月にあるプレキャンペーンのときに、全国宣伝販売促進会議、その後エクスカッション、視察旅行と、皆さんに本当にご協力いただきまして感謝申し上げます。城ヶ島のハイキング、マグロのグルメ、乗馬体験、こういった内容でしたが、参加者、旅行会社の感想がどんなものだったかという、コンテンツとして完成度が非常に高い、価格以上の付加価値を提供できると感じたという声でした。また、ホーストレッキングについては、普通に乗馬体験というのはあるけれども、馬に触れられる度合いとしては非常に格別で、非常にいいものだったというようなお答えをいただいているところでございます。本番は来年です、それに向けて、この事業者の反応であるとか、またそういうキャンペーンでの成果を踏まえて、皆様方と連携しながら、来年の取組に反映していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

次に、三浦半島魅力最大化プロジェクトにおける観光の魅力について、政策局長の足立原よりコメントさせていただきます。

【政策局長】

政策局長の足立原でございます。市長のお話にもありましたが、三浦半島地域を訪れる入込観光客数は増えており、宿泊も若干増えていますが、それでもやはり県全体と比較しますと、日帰りで観光をする人が多くて宿泊する人が少なく、消費単価、客単価でいうとそこまで高くないという課題があると思います。裏を返せば、この点をどうやって上げていくかということだと思っております。冒頭、横須賀三浦地域県政総合センターの川上の方からお話しさせていただいた、三浦半島魅力最大化プロジェクトの中の地域まるごとホテルはまさに観光消費額を上げたいという市町と連携した取組でございますので、このまるごとホテル、これも三浦市の方にもかなりお世話になっておりますが、これを続けていくことによって宿泊客を呼び込みたいと考えています。

そしてまた、三浦半島には歴史や文化、あるいは産業といった固有の魅力がございますので、この点を「GREEN×EXPO 2027」の場でも一緒にPRをして、ちょっと試しに三浦半島へ行ってみようかなと思うお客様の流れを、今後もぜひ県としても作ってまいりたいと思っておりますので、引き続きご協力いただきたく、よろしくお願いいたします。以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

三浦市長、いかがでしょうか。

【三浦市長】

ありがとうございます。例えばホーストレッキングは、本当におっしゃる通りで、エクスカッションの時、どういうコースだったかはわからないのですが、三浦海岸で海に入りながら乗馬で

きるという、なかなか体験できないことを以前から提供されていて、そういったもうすでにある魅力を私たちもやはり発信しきれてないってところが、市としても非常に大きな課題と考えています。これはやはり強化していきたいと思っていますが、ぜひ「GREEN×EXPO 2027」の、この機会に県のご助力もいただいて、すでにある魅力をきちんと発信するということをしっかりやっていきたいと考えております。また、宿泊のところ、まさにその消費単価の増大ということで、宿泊施設が少ないから帰るのか、帰ってしまうから、宿泊がなかなか増えないのかという、鶏が先か卵が先かみたいな話ですが、最近は民泊も増えている傾向でございます。インバウンドは、三浦市はまだまだ少ないですが、海外の方も少し増えているのじゃないかと、肌感覚では感じております。県としっかり連携して、地域まるごとホテルもそうですが、それに直接、関わらない事業者も、夜の食事、朝の食事時も少ないということもありますので、このあたりの課題にしっかり対応していきたいと考えています。引き続き、よろしくお願いします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。それでは最後になりますが、葉山町長からご発言のありました、二子山山系を中心とした町内の緑を恒久的に保全活用する取組につきまして、環境農政局長の尾谷よりコメントさせていただきます。

【環境農政局長】

環境農政局長の尾谷でございます。三浦アルプスの頂が属する、葉山町は、葉と山の町ということで、オオタカやサンコウチョウ、オオサンショウオ等、貴重な、本当に希少な生物もいるというお話をいただきました。やはりこの葉山、双子山地区というのは本当に貴重な自然環境が残されている重要な環境だと思っております。こうした中で、広大な私有地を含むというところで、それをいかに恒久的に保全活用していくかということにつきまして、現在、町と県の関係機関で、「葉山の二子山地区における緑地の保全利活用に係る検討会」を設けさせていただいております。この取組を通じて、町の取組をぜひ応援していきたいと思っております。この検討会において、今後も意見交換等を通じて支援させていただきたいと思いますので、町と県で歩調を合わせながら取り組んでいければと思っておりますので、引き続きよろしくお願い致します。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

葉山町長、いかがでしょうか。

【葉山町長】

環境農政局長のおっしゃる通り、引き続きよろしくお願いしたいと思います。ただ、横須賀市と逗子市の地域が若干関わっていますので、そこも一緒に連携しながらぜひお願いしたいと思います。まさに三浦半島の大切な自然ということで、ぜひ連携していきましょう。よろしくお願いします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。以上で、前半の意見交換を終了させていただきます。続きまして、市町からの話題、課題等に入らせていただきます。こちらも同様に、まず建制順に皆様から県への要望等をいただいた後、各局長からコメントをさせていただく方法で進めさせていただきたいと思います。大変恐縮でございますが、ご発言 5 分程度でお願いをしたいと思います。それでは横須賀市の上条副市長からお願いをいたします。

【横須賀市副市長】

まず、要望の前に、特に近年、我々、よく県の皆さんのところにいろいろとお話に行くのですが、まずどうやれば実現できるのかなってという姿勢で聞いていただいているというのをすごく感じていて、うちの職員もよく感じています。その点について本当にありがたいと思っている上で、できればこういうことがあればということをお願いしたいと思います。まず、補助金。今回 2 つの例にしたのですが、よく神奈川県補助金の中で、何年間限定という補助金があります。これについて異論はないのですが、事業によっては、記載のとおり、導入時に有効な補助のイニシャル型と継続的に必要なランニング型があるのではないかと我々は思っています。例えば設備投資等の初期に必要な補助金とか、これはイベント等の立ち上げを支援すると。その後スポンサー等を獲得して、補助金がいらなくなって、それで自走していくというパターン。それから補助等を受けて事業等が成長して、補助がなくても自走可能になるということ。それから、事業等の成長の結果、税収等が増加して市政に還元される、こういった補助金と、福祉や教育に代表されるような、特定の課題を解消するための継続的な補助金。これらは社会課題が解決されるまでは、補填し続けないと、なかなか効果が表れにくいようなものがあると思っています。それで今回、次のページになりますけれども、2 つ、それほど大きな額ではないですが、始めていただいたことに対してはとても感謝していますが、学校関係の、市町村立学校働き方改革加速化補助金、それから市町村不妊治療助成費補助金、こちらの方は、3 年で徐々に補助率が少なくなっていくということです。市民や学校現場等に直結する補助金のため市町村がやめるわけにいかず、ずっと市町村がその分を出し続けなければならないということになります。例えば少子化ですとか、学校の働き方改革が進んで、もう必要なくなったっていうことであれば、問題ないのですが、そういったようなことを感じています。それ以降については、資料に詳細が書いてありますので、ご参照いただければと思います。次のページ、不妊治療等は、やはり少子化の中で、非常に努力されているカップルの方がいらっちゃって、令和 5 年度 112 件、令和 6 年度 151 件ということで、どんどん増えています。これが増えるということは、今の社会情勢の中でいいことだと思っています。ですから、市町村は補助をやり続けますけれども、やはり協働して社会課題を解決するという意味で言えば、ランニング型のところについては、成果が出るまでみたいところがあると、より事業成果が出るのではないかと考えております。こうしたところについて、ぜひご検討いただければと考えております。よろしく申し上げます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、鎌倉市の松尾市長、お願いいたします。

【鎌倉市長】

鎌倉市からの民泊の問題について、昨年に引き続き、取り上げさせていただきます。同じような内容ですけれども、昨年お話をさせていただきましたが、決して神奈川県が取り組んでないとは全く思っていません。この間もいろいろと協議調整させていただいて、本当にありがとうございます。ただ、これは条例の中でしっかりと、どう位置づけをしていくのか。このあたり、やはり神奈川県にお願いをしなければならない部分というところがございまして、今回取り上げさせていただいているところです。鎌倉市としては、民泊のガイドラインというのを独自に制定させていただいています。そういう意味では、民泊の事業者の皆さんも地域の中で理解をいただいた上でやりたいという事業者の方がとても多いので、任意ではありますが、住民説明会なども丁寧にやっていただいている事業者が大半だということは、今回取り組んでいるの気づきがございます。ただ、他県の状況としては、例えば和歌山県では、事前に住民に説明した上で、反対する意思がないことを確認しなければならないというようなことを、条例で規定しているところがあります。また、市区の条例の趣旨なども、その地域にあった、地域の課題に合わせた形で、取り組んでおられる状況です。鎌倉としますと、民泊そのものを全否定するという考えはもちろんございません。この間、見てきた中では、やはり家主不在型と言われる、管理の方がいらっしやらない民泊、ご案内の通り、何か課題があれば、連絡をして原則 30 分で来られるように、ということが規定されていますが、これはもう全く守られないので、やはり家主不在型というのは、トラブルの大きな元になっています。きちんと管理する方がいる民泊であれば、十分な話し合いのもと、何か課題があっても、話し合った上で解決という、民主的な形で解決できるので、やはりそういうものを共に目指していけるような条例を制定できればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。私からは以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、逗子市長、お願いします。

【逗子市長】

保育士の処遇改善については、福祉子どもみらい局長には毎年お願いしており、県の方にも伺って重ねてお願いしているところです。この地図で見てお分かりのように、逗子市は、月額 4 万円以上の上乗せをする横浜、鎌倉、横須賀市に囲まれています。その中で月額 4 万円以上の支援はできないと、こう言い続けております。例えば新たに保育士になる方への住宅手当の補助ですとか、採用する時の園に対しての補助、こういった支援はやっていますけれども、何分やはり月額 4 万円以上の差というものは、大変大きく、横浜もしくは東京にまで、職場、仕事を求めるということが現実、起きております。そうした中で、4 万円をどうするかという問題ではないと考えております。市でもこれはやっていくべきだと思いますので、その制度は作っていきたい。ただし、単独でやっていくには、財政がどうしても厳しい状況でありますので、例えば、市負担額に同額、県の方で補助をお願いできればというのがかねてからの要望です。例えば市が 5,000 円出した場合、県も 5,000 円の計 1 万円、市が 1 万出すならば合わせて 2 万円と。そういったところで、何らか保育士の処遇を改善してあげることで、逗子で働きたい、逗子の子育てに協力し

たいという、こういう人たちを確保していきたい。これは県全体の問題ではないでしょうかという、お願いします。この財政力による地域差が出ないように、県による処遇改善の制度、これ4万円を県で負担してくださいではない。我々も応分にやりますが、県でも重ねてそこにご理解をいただければということで、毎年直球勝負でやっております。どうかご理解をお願いしたいと思います。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、三浦市の出口市長、お願いいたします。

【三浦市長】

三浦市からは、三浦海岸の活用と、海水浴シーズンのみならず、少し期間を伸ばして、年間を通じた活用について、お話しさせていただきます。三浦市においては、今、この三浦海岸の海水浴場をどうしていくかというのは大きな政策的な課題でございます。やはり市費としてもしっかり投じていかなければならないということで、財政負担も大きくなっていますので、こちらについてご相談させていただきます。少し古い話からですが、1966年7月に三浦海岸駅が開業しまして、当時は海水浴ブームということもあり、大変な活況があったというのが過去の話でございます。しかし、レジャーの多様化ですとか、他の海水浴場との競合、近年は非常に夏、暑すぎるといいうことで、入込観光客数は減少の一途をたどっております。かつては100軒以上あったと言われる海の家軒数も年々減少しまして、最後に開設した令和5年度は2軒のみという状況です。コロナ禍には、令和2年、4年非開設となりまして、令和6年度、最後に組合が解散の意向を示しまして、三浦海岸海水浴場の歴史は一旦幕を閉じました。そして、この令和6年に海水浴場を開設できなかった時、市民の方の落胆というのはかなり大きいものがありまして、やはり市民の皆さんは、海水浴場を開設されることを望んでいるということは、変わらないことかと考えています。そして、昨年度、民設から公設、市の方で開設するというところに舵を切りまして、「MIURA FAN BEACH 三浦海岸」として市が開設しております。開設にあたっては、スキームの検討には県河港課、横須賀土木事務所から多大なご支援、アドバイスをいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。海水浴場施設の占用許可に係る審査基準によりまして、三浦海岸には現在、海の家が建てられないということになっておりまして、県内には前例がないと思われる海のない海水浴場、遊泳以外にも様々な楽しみ方ができるビーチとしてリブランディングを図っているということでございます。具体的には、日よけ場所として南アフリカ発祥の大型テントを設置したり、キッチンカーを呼んで飲食提供したり、今年も提携しておりますが、ニッポン放送のラジオ生放送を行ったり、去年はアイドルグループの番組、リア突WEST.とコラボ企画を実施したり、ビーチバレーコートを設置したり、映画を上映したりということで、またアートフィスティバルもやっております。様々な企画をして、なんとか新しい海水浴場の魅力を創出できないかということで、努力をしているところでございます。こちらの写真は夜間の様子ですとか、映画のイベント、そしてアートの様子でございます。これらの事業実施にあたりましては、国の第2世代交付金や県の補助金も活用させていただいております。令和9年度までは、国の交付金

を引き続き活用する見込みでございまして、令和7年から3か年で新たな三浦海岸の形を模索していきたいと考えております。今年度は7月18日から海水浴場を開設しております。昨年に引き続き、ストレッチテントの設置や、今年は、ミニオンズ&モンスターズとのコラボ企画ですとか、県補助金を活用したユニバーサルビーチ化、去年に引き続き、アートフェスティバルの同時開催ということをやっております。もし機会があれば、ぜひ来ていただきたいです。アートフェスティバルをやっておりますと、やはり海岸の雰囲気も良くなって変わっていきますので、ご家族に親しみやすい海水浴場ということを目指していきたいと考えております。

そして三浦海岸の課題ですが、令和7年、8年と事業を実施するにあたり、課題はやはり持続可能性が1番でございまして、新たな海岸、海水浴場としての魅力向上、これが2つ目であると考えています。背景としましては、これ毎年スクラップアンドビルドで従来型の海水浴場を作っていくのには、三浦市の財政的に厳しい状況の中では、費用負担が大きすぎるということでございます。海の家が建てられず、夏季の集客に限界があるならば、海水浴以外に通年楽しめる環境づくりが必要になってくるということでございます。やはり何らかの投資を夏場にして、それが海水浴場期間だけしか回収ができないということは、なかなかスキームとして無理がございまして、期間を伸ばしていくということが一般的な考え、一つの定石なのかと考えております。三浦海岸は今後、海の家のある海水浴場とは違う形で引き続き整備する必要があるまして、今申し上げた通り、三浦海岸は非常に広く、いろいろな活用が想定できますので、できれば年間を通じて観光客の方に来ていただける場所にしたいと考えています。例えば、広い砂浜を利用して、ビーチバレーコートですとか、ビーチサッカーのコート、そして、常設のシャワーというのはございませんので、常設のシャワーですとか、更衣室、バーベキュー施設等を持つ、海浜公園のようなものができると、非常に三浦市としてはありがたいと考えています。このような拠点づくりは、なかなか市だけではできませんので、三浦海岸の管理者である県と一体となって、神奈川県の魅力創出の一つとして、ぜひ取り組んでいきたいと考えています。三浦半島の集客、海辺の暮らしということで、半島の魅力を最大化する一つとして、海岸の利用について、今後ぜひ具体的な協議をさせていただきたいと考えております。何卒よろしくお願いいたします。以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。続きまして、葉山町の山梨町長、お願いいたします。

【葉山町長】

出口市長、先ほどの三浦市のスライドの最後ですが、ビーチモルック、ビーチテニス、ビーチレスリング、最近ではビーチスポーツがすごく盛り上がっていますので、ぜひよろしく願いしたいと思います。葉山町からは、要望としてお持ちしました。土木事務所には本当に細かく動いていただいているので、報告だけで済むのですが、これは毎回言ってきましたバスベイです。面白い事例をあげていまして、これは、現在、半分を県土木事務所で整備していただいています。左側の写真がかつての状況です。右側の写真が半分白いところ、クッションドラムのあるところを整備していただいて、これから右側を整備するのですが、これは、両方とも民地だったところを、

地域の所有者から情報が入ったので、町が一部を先行取得して、それをその後県に買っていただいて、整備に着手していただきました。地元において、情報とネットワークのある市町村と県が連携をして取り組めた非常に大きな、面白いスキームではないかと思っていますので、こういった連携ができていますということで、ぜひ引き続きよろしくお願いしますということをお伝えしていきたいと思います。

こちらはジレンマと先に申し上げた方がいい事例と思います。課題として難しいのは十分承知はしていますが、町内会から厳しく言われている点もありますので、ぜひお伝えしたい点でございます。県道 311 号の逗葉新道、鎌倉に向かう方面を進む道ですが、その場所に、クリエイトができ、その反対側にローソン、かつやができ、さらに病院もこの地域にあり、だいぶ賑わいが出てきました。賑わいが出てきたがために、駐車場も大きくそれぞれ取っていることから、車をそれぞれに止めて行き交う、横断する方々が非常に増えてきてしまっている場所です。ただ、この場所は左側の地図でお分かりの通り、左右 900m 離れますけども、長柄交差点と川久保の交差点があるということと、あと地図の真ん中、少し分かりにくいですが、311 と書いてあるところの左脇に歩道橋もありまして、学校が近いことから歩道橋のところで子どもたちは渡るのですが、この場所に横断歩道を設置するのは難しいと県警本部から言われてしまっているところがあります。ここの下の文章に書きましたが、根拠を改めて確認しておきたいんですが、県警本部の方から歩行者の交通量は少ないと言われております。この件、政党要望でもいろんな県議の皆さんにもご相談していますが、皆さんからも僕の地元でもあるとのお声をいただいております。非常に難しいのはわかっておりますが、非常に交通量が多く、朝、夕の時間帯、そして、夏、土日は渋滞が激しく、本当にいつ事故が起きてもおかしくないという場所ですので、こういった場所をジレンマと言いながらも、ぜひ改善をしていただければと思います。

続いては、引き続き今勉強会やらせていただいている最中でございます、無電柱化の件です。この春に県の無電柱化計画に加えていただきましたので、少しずつでも実現に向けて動いていきたいと思っております。こちらもご報告になりますが、道路橋ではない人道橋である臨御橋につきまして、コロナ禍の中で老朽化から、これは町が設置した橋なのですが、寄付金を募って、3 億を超えてこの橋の整備が、この秋から始められるようになりました。葉山町の、本当に大事な橋ということを皆様にご理解いただいて、今回工事に取り掛かれるようになりました。ただ、まだ現行では階段で橋を渡る状況になっていますので、ほんの数段なのですが、今、バリアフリーを図るために、こちらも県土木事務所の方に相談をしています。令和 10 年の供用開始に向けて頑張っていきたいと思っております。

ここから、これも 4 市の皆さんもぜひ一緒にご検討いただきたいところなのですが、昨今、資格者、土木関係の人材の獲得であったり、資材も高騰していることから、非常に厳しい状況に対して、いろんな施策が日本国内でも取り進められています。左側の事例を一つ参考に紹介します。これは下田市、御用邸友好都市ということで、下田市長とよく話をしているのですが、もともと静岡県土木事務所の所長をやられていた方で、その兼ね合いもあって、静岡県と道路に関して協定を締結することで、その道路に対して、県が県道、市道ともに地域 J V のところに発注をし、後ほどそこに下田市が随意契約をするという形で、要は静岡県との境なくスケールメリットを生かした取組ができているという事例になります。右側は、下水を中心に、秋田県の方で、県、秋

田県内の市町村と、民間事業者と一緒に官民の出資の会社を作りまして、そこの方で下水整備にかかるという取組です。当然、下水は道路の下ですので、道路整備もここに含まれてきますし、まだまだこれからの取組ではありますが、こういった大きな取組に県が旗を振って、市、町、村の境をなくして、ともに事業発注を行ったり、人材を募ることで、今、大変厳しいインフラの整備について取り組んでいるという事例の紹介です。神奈川県の方でも、すでに県西部中心に、意見交換をしているということを聞いておりますが、葉山町は重機を持っている事業者が町内にほとんどないことから、常に入札関係も区域を広げてやらせてもらっていますが、ぜひ市の皆さんと一緒に、こういった三浦半島のインフラ関係、道路の下にある電気やガスも含め、上下水、いろんなものを共に取り組めるようなプラットフォームができていくといいなと思っております。一つの提案として、今日申し上げておきたいと思いました。この資料はA Iで作ってもらったものですが、緑が国道であれば、黄色が市道で、向こう側の市道、こちらの町と分かれているというものを一体化して取り組めないかというイメージです。昔からも議論されているそうですが、なかなか縦割りで厳しいところもあって、難しいのはわかるのですが、現在の状況を背景に、共に何かできないかということをお願いさせていただければと思ってお待ちしました。次の資料は青ラインが葉山町の土木資格者の人数なのですが、だいぶ高齢化しており、先行きが本当に厳しいところにあります。ぜひ4市1町で、まず勉強すること、情報交換することから、共にできることを、何か議論ができないかということをお願いさせていただきました。以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。それではまず、横須賀市上条副市長からご発言いただいた内容につきまして、関係局からコメントさせていただきます。まず、教育局長の篠田よりコメントをさせていただきます。

【教育局長】

教育局長の篠田でございます。よろしくお願いいたします。市町村立学校働き方改革加速化補助金について、お話をいただきました。本来、市町村立学校の働き方改革の取組というものは、服務監督権者である市町村教育委員会が担うべきものと考えておりまして、県教育委員会では、市町村立学校における働き方改革の加速化を強力に支援するため、こうした県と市町村の役割分担を超えた中で、重点期間である令和7年度から9年度の間の3年間限定で、この加速化補助金を臨時的、特例的に措置したというものでございます。そのため、期間終了後は、服務監督権者である市町村教育委員会が働き方改革の取組を自走していただくよう、先ほどご説明ありましたように、段階的に補助率を低減するというようにしておりますので、現時点では、補助金の延長というものは考えていないという状況でございます。働き方改革の取組を推進するため、引き続き、この補助金の積極的な活用をお願いしたいとともに、市町村立学校の働き方改革に資する取組、これにつきましては、県教育委員会としても引き続き支援してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。私からは以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

続きまして、健康医療局長の埋橋よりコメントさせていただきます。

【健康医療局長】

健康医療局長の埋橋でございます。よろしくお願いいたします。横須賀市の上条副市長からご提案いただきました不妊治療の件、これだけ少子化が進む中、お子さんを持ちたいという方を応援する取組というのは、県としても非常に重要だと考えておりまして、横須賀市の方でご支援いただいていることに対しては、感謝申し上げます。この不妊治療、令和4年度から基本的な部分は保険適用となりましたが、今、保険適用に加えて、自己負担で行う先進医療という部分、これをプラスして行う方も大変多いと伺っておりますので、県としては、この先進医療、自己負担の先進医療部分に対して、補助を行っていただく市町村に対して、県からも補助をするという事業を行っております。本来はこの先進医療の部分につきましても、私どもは保険適用としていくべきではないかと考えておりまして、国の方にもそうした要望を行っております。令和9年度以降につきましても、それに対する国の動きも注視しながら、今この県の補助事業は、多くの市町村にご活用いただいている部分がございますので、そうしたことも踏まえまして、検討してまいりたいと考えております。以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

上条副市長、いかがでしょうか。

【横須賀市副市長】

ご回答ありがとうございます。働き方改革、地方基準財政需要額等、色々なことの中で、それは県だ、それは市だということも理屈ではわかるのですが、小児医療費の補助金ですとか、そういったようなものも踏み込んでいただきました。それに比べると随分と少額だと思いますし、どこの市町村も困っている話ですので、やはり途中で補助を外されると、やはり厳しいと思うのですね。結局はナショナルミニマムなので、国がやるべきことだと思います。この不妊治療にしても、全国的な課題なので。神奈川県だけがという話ではないというのは当然承知してしまして、神奈川県ではなくて、本来は国が国家課題としてやるべきことであろうと思っています。しかし、その間、つなぎとしてやっていただいているのであれば、我々も一緒にやっていくので、と考えているところです。理屈の世界はあるけれども、現実はなかなかそうはいかないという部分もありますので、引き続き検討していただければありがたいと思っています。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。次に、鎌倉市長からご発言いただきました住宅宿泊事業法に基づく民泊に対する規制について、健康医療局長の埋橋からコメントさせていただきます。

【健康医療局長】

引き続き、健康医療局長の埋橋から回答申し上げます。鎌倉の松尾市長から、昨年に引き続き

民泊のお話いただきました。葉山の山梨町長からも同じ課題提起いただいたというふうに受け止めております。民泊につきまして、数が多くなるにつれて、騒音やゴミの問題、また夜中電気をつけているですとか、そういった様々な課題があるというお声を伺っております。先ほどのご紹介にもありました通り、民泊につきましては、都道府県または保健所を設置している市がそれぞれ条例により区域や期間を定めて一定の規制ができるとことになっており、現在の神奈川県では箱根町が区域と期間を定めて、規制をかけているという状況でございます。先ほどもご案内がありました、実はこの民泊につきましては、今月、まさに法を所管する観光庁の方から、新しい通知が出まして、より一層、住民の方の生活環境に配慮した形での規制もできるという形での通知もございましたので、今、鎌倉市の方からはもう既に所管の課の方からも具体的なご要望内容も伺っておりまして、調整しているところでございます。この新しい国の通知の内容も踏まえて今後、どうすればより実効性の高い形での取組ができるか、またご相談をさせていただきたいと思っておりますので引き続きよろしくお願い申し上げます。私からは以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

鎌倉市長いかがでしょうか。

【鎌倉市長】

はい、ありがとうございます。そのような方向でぜひ進めさせていただければと思いますので引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。次に、逗子市長からご発言いただきました保育士の処遇改善に係る県制度の創設について福祉子どもみらい局長の本間からコメントをさせていただきます。

【福祉子どもみらい局長】

福祉子どもみらい局長の本間でございます。桐ケ谷市長が昨年私どもの方に、直接来ていただいて、目の前で直球をいただいておりますので、本当に現場のですね、困りごとということで、そういったお声をいただく点は非常に大切だと思っていますし、貴重な意見をいただいたと思っております。保育士不足は、どこでも同じ課題を抱えていて、その一つの大きな原因が給料となっているのだと思います。神奈川県でもそこを何とかしたいということで、市長ご提案の形ではないのですが、例えば、非常勤の保育士を雇用する場合の経費の補助ですとか、それから令和7年度からは保育士の経済的な軽減を図る上で、家賃補助を市町村と一緒にやらせてもらうとか、そういった独自の取組をやっているところでございます。賃金については、この保育の事業は公定価格という形で作っておりますので、国の制度設計によるところが非常に大きいというところがございます。国の説明でも、ここ1、2年のところ、人件費の改善ということで、令和6年度の引上げ率を過去最高の10.7%にする、それから令和7年については5.3%増とする等やっていますが、それでも他の職種と比べると、まだその平均には追いつかないというのが実情でございます。加えて、お話にもありましたが、やはり東京都にとられてしまうというところ

ろが、どの市町にも大きく、これも神奈川だけではなく、埼玉、千葉、あるいは関西圏ですと奈良県ですとか、同じような課題を抱えているところもございます。こういった県とも共同して、当時の三原大臣がいらっしゃった時に、直接要望する等、活動を重ねているところではございます。ただ、そう言っても、なかなか改善が進まないところですが、今現在、国の方で検討している仕組みとして、人事院勧告で、地域区分が見直され、これまで市町村単位で率を設定したところを、都道府県で大きくり化にしようという形で、今、検討が進んでいると聞いております。我々もしっかり注視していきたいと思ひますし、これが実現していけば、今現在、大変低い率だったところが上がっていくという形になるのですが、一方で、鎌倉市等は少し下がってしまうというところでございます。ですので、県としては、国に対して東京都と同じにしてほしいと、高めの要望を出しているところでして、かつそれが無理だとしても県内で差が出ないように形で制度設計をして欲しいという要望をしているところでございます。このように機をとらえて、しっかり国に対して要望していくということに加えて、県としてもできることはしっかりやっていきたいと思ひますので、今後の予算確保の方はしっかり進めてまいりたいと思ひております。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

逗子市長いかがでしょうか。

【逗子市長】

ありがとうございます。僕らも現場に行くとき心苦しいのですが、もうちょっと待って、頑張れって言いつつ、やっていくにも限界がありまして。どこかで、何かしら、きちんと、満額でなくとも大丈夫だと思ひておりますので、多少なりとも我々の誠意なるものが伝えられればと思ひております。来年度、知事もおっしゃられましたように、予算に向けてこの会を設けられたとおっしゃっていましたので、ぜひ期待をしております。よろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

はい、ありがとうございました。次に三浦市長からご発言いただきました、三浦海岸を活用した持続可能な観光について、いくつかコメントさせていただきます。まず、文化スポーツ観光局長今井からコメントをさせていただきます。

【文化スポーツ観光局長】

三浦海岸の観光振興ということで、海水浴場とか、その設置とか、制度上の課題というのは抜きにして、観光の視点からということでございますが、昨日たまたまテレビで、海水浴客が全国的に減少しているという話がありました。確かに昔、夏のレジャーといえばもう海でしたし、黒ければ黒いほど健康だみたいな話はありませんでしたが、現在は酷暑ということで、状況が変わってきていますが、その中で、千葉の稲毛海浜公園というのが、すごく客が増えている砂浜だそうで、人工の砂浜でオーストラリアから砂を持ってきたりですとか、海水浴場のすぐ隣にプールがあったり、植物園があったり、バーベキュー場があったり、どちらかというと、リゾート開発的な取組を行っていて、それで人が集まってきました。まず紹介されたのは鎌倉の由比ガ浜、や

はり昼は暑いから夜の海の家でやられているとか、あとライブや音楽を流したりですとか、海の家の開館時間を伸ばして、結構人が集まっているといったお話をされていました。海というのは一つの魅力でしょうが、やはり海水浴場は変わってきているのだろうかと思っております。イベントを継続して誘致する。今、いろいろトライアルでやられているということで、県の補助金を使っていただいて、色々取り組んでいただければ非常にありがたいと思っておりますし、ふと思ったら、イベントで言うと、あのフジロックフェスティバルがありますが、新潟の苗場スキー場でいつもやっていますけれども、あのイベントをやることによって、夏の観光客が恒常的に来ているわけですね。そしてすごい賑わいになっているという、今までの海水浴場だっていうのと、また別の、アートの視点で取り組まれているので、何が当たるかわからないですけども、我々も一緒に注視しながらやっていければと思っております。よろしくお願いします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

続きまして、国の交付金、ふるさと納税の関係から、政策局長の足立原からコメントさせていただきます。

【政策局長】

私の方からは、三浦市の財源となる、国の交付金や、企業版のふるさと納税について短くお話しします。国の交付金については、活用しづらい部分もありますので、県としては毎年、国に柔軟に使わせてくださいという要望をしています。具体的にこのような事業で使いたいという希望があれば、ぜひご相談ください。

そのほか、今の交付金をどう使うかという話ですが、現在の地方創生関係交付金を所管している内閣府のご協力を得て、内閣府相談会を実施し、柔軟な段階での相談を受ける場を設けておりますので、ぜひご利用いただければと思います。以上です。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

続きまして、海水浴場の設置関係について、健康医療局の埋橋よりコメントさせていただきます。

【健康医療局長】

健康医療局関係で申し上げますと、サービスを提供する内容、例えば食事を提供するとか、シャワーとか、それぞれのサービスの内容によって、条例の許可を取得する必要があるものというのは変わってきます。今日、保健福祉事務所の方にも同席をしていただいており、相談会など、柔軟な段階で構いませんので、お気軽にご相談いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

最後に海岸の占用許可の関係につきまして、県土整備局の池田よりコメントさせていただきます。

す。

【県土整備局長】

県土整備局の池田でございます。いつもお世話になっております。よろしくお願いいたします。海の家は、海岸法の施行の前から、浜茶屋等、組合が設置をしていた経緯を踏まえ、これまで継続的に運営をしてきた組合に対して、海の家が海水浴客へのサービスを提供することを目的とする施設として、海水浴場設置期間に限って占用許可をしているというスタンスがございます。先ほどこの会が始まる前に、FAN BEACHの方も足を運ばせていただいて、見てきました。新しい取組を一生懸命やられているというところは、肌で感じたところであります。三浦市のお話を聞いていますと、そういった海の家という感覚ではないと私は思っています。一年を通して集える、賑わい拠点はこうした海の家とは、別の施設になると考えています。もちろん、海岸に作る施設ですので、設置する施設が安全であること、津波や高潮に対しても、その地域の環境を守る、沿岸を守るという、海岸法の目的には合致させなければいけないところはあると思いますが、民間でない三浦市が公園等、一年を通して使える施設を作ることはできると考えています。県内では、平塚海岸において、平塚市が常設のビーチスポーツのコートですとか、飲食できるものを販売する売店、それから、トイレ、シャワーなどの便益施設といったものを、夏季の海水浴場の開設ももちろんしているのですが、先ほど申し上げたようなものは通年で占用許可を受けて開館、利用している事例がございます。まずはこうした事例を参考にしながら、協議を進めさせていただきたいと思っています。逆に、この既得権がなくなった今、考え方によっては、三浦市が望むやりたいものができやすい環境になっているのではと私は考えています。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

三浦市長いかがでしょうか。

【三浦市長】

コメントいただき、ありがとうございます。全体として、前向きなご回答いただけて、非常にありがたく感じております。平塚市の取組は、私どもも注目しておりまして、参考に勉強させていただいているところでございました。県土整備局長がおっしゃられたように、従来型の海の家をなんとか復活させたいということではなく、夏の海水浴場離れというのはありますので、通年利用、もしくは春から秋とか、様々なパターンがあると思いますが、ビーチスポーツ、アートも考えていきたい。本日いただいたコメントというのは、私も背中を押していただけるコメントというようにとらえました。市としても、これからしっかりと、具体的に考えていきたいと思えます。これからも、また相談させてください。ありがとうございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございます。次に、葉山町長から何点かご発言いただいた中で、まず、快適に利用できる道路整備の関係について、県土整備局長の池田からコメントさせていただきます。

【県土整備局長】

最初に、風早橋の残りのバスベいの設置にあたっては、まずは葉山町に、その事業用地の確保のめどをつけてくださったことに改めて感謝申し上げたいと思います。おかげさまで昨年度までに用地買収を完了し、工事についても、全体延長の 40 メートルのうちの 25 メートルを昨年の 8 月に完成させていただきました。今年度はすでに工事の入札も終わりました、現在、契約手続中ですが、残りの 15 メートルの方、今年度内の完成を目指して頑張っていきたいと思っております。その他の二カ所のバスベいについては、葉山町と連携しながら、取り組ませていただきたいと思いますので、ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

また、無電柱化のお話がありましたけれども、無電柱化についても令和 4 年度に県と町とで構成する勉強会を立ち上げさせていただきました、課題の整理などを行ってきました。昨年 5 月に県では、富士山に見える道、災害に強い道というスローガンを掲げ、県と市町村による推進会議を設置し、箇所の洗い出しをやらせていただきました。そういった中、葉山町からお話ありました、国道 134 号と町道を一体となって、防災拠点まで無電柱化していくというご提案をいただいたところで、推進計画に位置づけさせていただきました。今後も占有者の調整等も一体としてできますので、こういった中で葉山町と連携しながら、勉強会を進め、電線管理者との調整など、頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

あと一点、臨御橋の件ですが、私、現場に行かせていただいて、思っていたよりも老朽化が激しかったと思ったのですけれども、その一方で、あの雰囲気がある場所柄で、あとは段差の課題などがあると改めて認識しました。河川法に基づく許可については、今実施しているところですが、段差の解消等を含め、工事ヤードの検討等、そういった手続の中で、町のお考えもお伺いしながら丁寧にやっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

続きまして、県道 311 号、クリエイト前の横断歩道の設置について、神奈川県警察本部交通部交通規制課長の金丸よりコメントさせていただきます。

【神奈川県警察本部交通部交通規制課長】

警察本部の交通規制課長の金丸と申します。よろしくお願いいたします。葉山町長の方から、横断歩道の設定についてご意見をいただきました。この県道 311 号クリエイト前という場所につきましては、以前から要望いただいておりますが、交通実態を見ますと、付近の歩行者交通量も少なく、道路の横断につきましても、直近の商業施設との往来等のためのわずかな数に留まっているというところでございます。最近も改めて本年 6 月に交通量調査を行っております。これは、葉山警察署ではなく、本部の交通規制課の者が私服で行っております。その結果、交通量、横断実態ともに少なく、状況に特段の変化は認められていないというのが現状でございます。このように、必要性を裏付ける十分な交通事態が認められない状況において、横断歩道を設置した場合、守られない横断歩道になってしまう等といった交通管理上のデメリットも懸念されるところでございます。こういったことから、現状では横断歩道の設置はやはり難しいと申し上げざるを得ないところではございますが、そうは言っても、交通量や、交通の流れ、

そういったものは、様々な要因により変化が有り得るものでございます。今後そういった変化が認められた際につきましては、横断歩道の設置の可否を含め、実態に適合した最適な交通規制のあり方を改めて検討する必要はあるものと考えております。以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

引き続き、土木技術職について、政策局長の足立原からコメントさせていただきます。

【政策局長】

土木技術職のワーキングのご提案でございますが、ご提案のとおり、県内では、県西地域でかなり危機感が高かったため、先んじて、今年の3月にワーキングを立ち上げ、実務担当者を入れて、どうしたら色々なことを効率的にできるかを検討しております。以前、葉山町長からお話をいただき、オブザーバーとして参加していただいております。感謝しております。このような中で、もしも横須賀三浦地域で立ち上げる場合には、県西地域での議論の内容や話題、アイデアを共有しながら、県としてもご協力させていただきたいと思っております。また、県や、県職員もそうですが、やはり人口が減っている中で、どのように事務を持続させていくか、どのように将来を担う職員を確保し、育成していくかが非常に大事だと思っております。特に専門職はそのような状況でございます。事務については、「みんなで考えて事務を減らす、デジタル化する」、また、先ほど町長からありました「民間委託、外注、それから最後にみんなでまとめて一緒にできるものはまとめる」、このような視点は非常に大事です。この視点を持って取り組んでいきます。それから専門人材の確保については、人材確保、育成等のほか、ここで働きたいと思ってもらわないといけませんので、そのためには、やりがいはもちろん、将来のキャリアパス含めて、どういうあり方で、個々の市町、県に限らず、このエリアで、公の仕事で働きたいという職員をどう確保していったらいいのか、議論を重ねながら試行錯誤していきたいと思っておりますので、改めてご協力をよろしくお願いしたいと思います。以上でございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

葉山町長いかがでしょうか。

【葉山町長】

ご回答いただき、ありがとうございました。この件は、着々とだと思っております。よろしく申し上げます。金丸課長の話は大変ありがたい話です。ただ、定量的な判断ではないと言えば、確かにそうなのですが、私自身、現地でもた渡ろうとしている、また渡ろうとしている、そういった年配の方々を見ますと、本当に危険だなと感じるところがあります。とはいえ、朝は渋滞になるものですから、そこに人が顔を出すと、冷や冷やするところではありますので、ぜひ引き続き、そういった危険がある場所ということはぜひ認識していただいて、先ほどおっしゃったように、いろんなパターンの可能性があればということで、ぜひご検討いただければと思います。ありがとうございました。

土木技術職に関しましては、人材の採用については、私どももいろいろな方法を試すのですが、民間が圧倒的に強いですね。県も同じだと思いますので、どうしてもスケールメリットを生かした方法というふうにしてほしいところであります。今日お持ちした資料なのですが、これ、国道事務所からいただいたものなのですが、国土交通省も、いろんなパターンを提案してくれております。国もそんな動きを取ってくれていることから、いろんなパターンがあると思いますので、三浦半島で動くのであれば、三浦半島の動き方があると思います。どうもありがとうございます。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。以上で、市町からの話題・課題を終わらせていただきます。それでは最後に知事から本日の懇談会全体につきまして、総括をお願いいたします。知事、よろしくお願いいたします。

【黒岩知事】

はい、ありがとうございました。皆さんの本音の声を聞かせていただいてですね、非常に参考になりました。三浦半島っていうのは魅力があふれているのだなと改めて感じています。

「GREEN×EXPO 2027」で神奈川県に来られる方々の流れをどうやって持って来ると、いうことを僕も工夫しなきゃいけないなと思いました。先ほど冒頭申し上げた中で、ミュージカルをやるということです。そしてみんなでそのダンスを踊って盛り上げていこうということです。そのダンスが出来上がっておりますので、ちょっと見ていただきますかね。GReeeeN といつかつてのグループ、今はGRe4N BOYZですね、彼らが作った「みんなでおどろう！ミュージカル Vibrant INOCH バイブラント・いのち」。

<動画を流す>

これをみんなで踊ってもらって、動画をどんどんあげてもらいたいのです。かつて、恋するフォーチュンクッキーというのがあって、県でいろいろ盛り上げましたよね。それぞれ、皆さんがここはぜひアピールしたいなという場所にみんなで行って、みんなで踊っていただきたい。それで、その動画を集めて、事前にブームアップするためにも使えますけれども、ミュージカルライブが実は2種類あり、ライブでやるミュージカルと映像版っていうのがあるのですが、このミュージカルのライブ版のステージの後ろに大きなスクリーンがあって、そこに皆さんが踊っている映像を出します。だから当然ミュージカルは本番時にあのダンスをみんなで踊るところが出てくるのですが、その時に会場でみんながライブで踊っている後ろでも、動画で出るという感じにしたいと思っていますので、ぜひ、これは皆さんご自身も踊っていただいて、どうぞ、どんどんお寄せいただいて、ブームアップしていただきたいというふうに思います。その中で、新たに、さっきもそれぞれの地域の魅力あるなと思ったのですが、やはりこれをどう誘導していくかという仕組みをしっかりと考えなくてはいけないなと思いました。確かにスタンプラリーが、一つ面白かなと思いました。これも会場の中だけじゃなくて、外に出て行って、これどこなのだろうと思いつながら来るというね。やっぱり回遊性、周遊性っていう中では、かつての大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の時、あれ非常にうまくいきましたよね。鎌倉に来た人がずっと他も回っていただくという。あのような流れをうまく生かしながら、工夫していきたいなと思いました。それと、海岸

の利用のことですね。これ実は、前も三浦海岸に行って、見ながら、ここは素晴らしい海岸じゃないか、海水浴客が最近少ないなど、前から思っていました。海の家、あれも昭和の時代のもので、もうそれではないだろう、常設のものを作れないのかと、何年か前に来て言ったことがあったのですよ。建設の何かがあるとか、海を家の協会があるとか、組合があるとか言っていたものが、すべてクリアされたとすれば、それはもうチャンスですよ。海岸エンターテインメントみたいな、前にキマグレンがやっていた音霊といったイベントがあって、僕も行ったことがあったのですが、そういった活用もできる。ハワイや、海岸のところに大きなホテルがある等、それが人を集める大きなパワーになっているわけですからね。そのような形で、ぜひ海岸を活用できるような、素晴らしい、新しい、海岸エンターテインメント拠点っていうのを作ってってもらいたいなと思いました。

それと、補助金の問題等々、大きな問題だなと思います。これは地方っていうものがどうあるべきなのかという、根本のありかたが問われていると思うのです。地域ごとに違った部分があっていい、そこで競い合うっていうのは素晴らしいことですが、そうじゃないところ、特に子供たちに関するものは、どこに住んでもみんな同じような形で、受けられるということは、これは国がやるべきことだろうと。それをなぜ競争させられるのだと。我々自身が東京都と接していて、東京都はどんどん施策を展開していくが、こっちはできないという問題を抱えている。皆さん抱えていらっしゃる問題と同じことを神奈川県全体が抱えているわけです。これはやっぱり国がしっかりやってと言っていくっていうこと。これは成功体験もあるわけです。高校授業料無償化っていうのを東京都がやっていて、こっちはできなかったっていう問題がありました。これをみんなでスクラム組んで、これは国がやるべきだって言ったら、実現できたわけですから。子供たちは、どこに住んでいても、同じ教育、同じ環境を享受できるということを、我々神奈川県だけではなく、周りと手を組んで、しっかり訴えてゆく、こういうふうにお約束したいと思います。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、令和8年度横須賀三浦地域首相懇談会を閉会とさせていただきます。本日はお忙しい中、長時間にわたり、誠にありがとうございました。